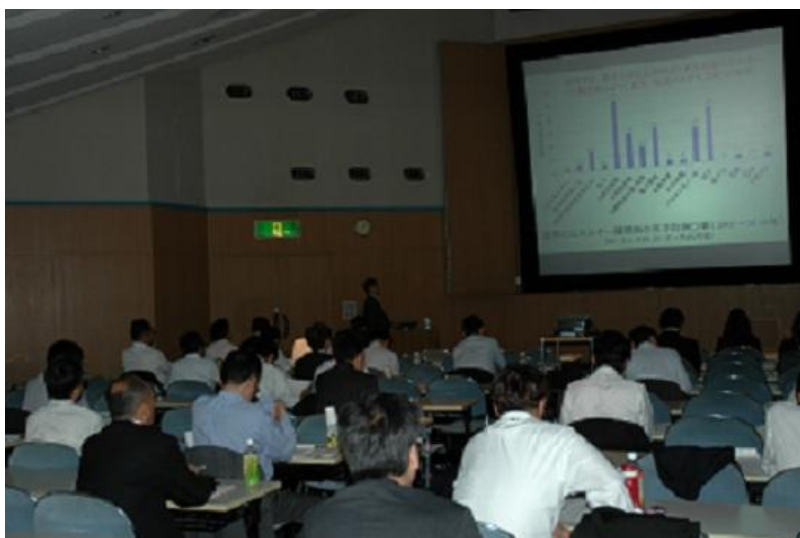


《2012年6月14日「第1回スマートエネルギー産業振興 特別セミナー」》

## スマートエネルギー産業振興会『講演会報告』

2012年6月14日、東京お茶の水・化学会館においてスマートエネルギー産業振興会／スマート・エコロジー企画主催による特別セミナー『産業用太陽光発電「メガソーラー」の最新動向と今後の発展』を開催した。スマートエネルギー産業振興会設立後の最初のセミナーである。「再エネ特措法の7月施行を東日本震災地域復興の切札に」と銘打ったこのセミナーは、再エネ特措法7月施行直前のタイミングで行われ、震災被災地である宮城県亘理町から被災地の現況と復興計画の講演も行われた。



セミナー会場

講師陣は、日本環境学会 和田武氏、(株)グリッド&アフィナンス・アドバイザーズ 松川恵美氏、(株)スマート・エコロジー企画 前田暲氏、(株)NTT ファシリティーズ 岩淵安孝氏、(株)東芝 渡辺憲治氏、(株)Loop 中村創一郎氏、宮城県亘理町・企画財政課 吉田充彦氏の総勢7名。(氏名は講演順)

以下、セミナー当日のスケジュールに従って、講演の概要を報告する。

13時5分にセミナーはスタートした。講演に先立ち、スマートエネルギー産業振興会座長前田暲氏の開会の挨拶があった。前田氏は東日本震災後とくに注目されているスマートエネルギーを産業振興の観点からとらえ、新しいエネルギーの振興のために当振興会を盛り上げていきたいと述べた。

続いて、司会進行役の日本大学 生産工学部 准教授 長井浩氏による進行の方針説明があった。



前田暲氏



長井浩氏

セミナーは 13 時 10 分、日本環境学会会長・和田武氏による講演から開始された。和田氏は経済産業省の調達価格等算定委員会の委員長も務められている。

### 「電力買取制度下における再生可能エネルギー普及と波及効果」

日本環境学会 会長 和田 武 氏（経済産業省 調達価格等算定委員会委員）



和田武氏

和田氏は再生可能エネルギーの国際動向をドイツやデンマーク等を例に解説、日本の再生可能エネルギー普及の遅れを浮き彫りにした。

再生可能エネルギー先進国であるドイツやデンマークでは、電力買取制度などの積極的普及促進策を実施し、地域に利益が還元するような市民・地域主体中心の普及方法をとっており、また、普及促進による社会的影響が地域に広がっていると解説した。

日本においても電力買取制度が再生可能エネルギーの普及に大きな役割を果たすとして、電力買取制度下での望ましい再生可能エネルギー普及の長期的な方向性を示した。

続いて、株式会社グリッド&ファイナンス・アドバイザーズ 取締役副社長・松川恵美氏による講演。

### 「米国におけるスマートグリッドとメガソーラー発電の最新動向」

株式会社グリッド&ファイナンス・アドバイザーズ 取締役副社長 松川 恵美 氏



松川恵美氏

松川氏は米国におけるスマートグリッドとメガソーラー発電の最新動向を明らかにしたが、ご自身の経歴を背景に金融の視点から事業化の可能性を検討するというユニークな講演となった。

米国のエネルギー総消費フローをもとに、米国におけるエネルギー情勢を整理し、課題を明らかにし、その上で、米国のソーラーパネルメーカーの現状やソーラービジネスに対する投資の動向、メガソーラープロジェクトの現状などを解説した。

さらに、米国におけるスマートグリッド、分散電力の有効活用として既存電力網と計画中のソーラーパワー送電網などの現状、今後の取り組みを明らかにした。

10分間休憩。15時10分より株式会社スマート・エコロジー企画 主席研究員・前田 暲氏の講演。

### 「スマートグリッドを支える技術とメガソーラー発電の事業展望」

株式会社スマート・エコロジー企画 主席研究員・工学博士 前田 暲 氏



前田暲氏

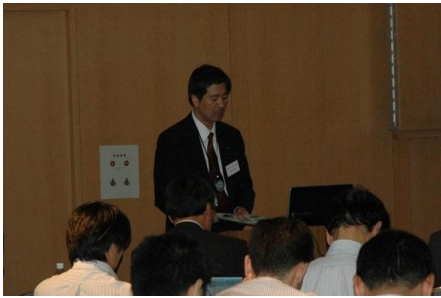
前田氏の講演は、メガソーラーの建設状況や事業の採算性、さらに、関連技術の開発動向などを明らかにするものであった。次々と計画が公表されるメガソーラーとその事業採算性を評価・検討した。

技術開発動向として、太陽光発電新技術（高効率太陽光発電素子を目指した材料開発）、蓄電池新技術（震災で需要の本格化した蓄電池の新技術）、系統連系技術（系統への影響を防ぐための連係技術）、新材料技術（電力の効率化、省エネを目指した材料技術）を取り上げた。

15時40分から、参入企業におけるソーラー取り組み事例の講演となり、(株)NTTファシリティーズ、(株)東芝、(株)Loopの3社による講演が続いた。

#### 「NTTファシリティーズの太陽光発電システムの取り組み」

株式会社 NTTファシリティーズ ソーラープロジェクト本部部長 岩淵 安孝 氏



岩淵安孝氏

岩淵氏の講演は NTT ファシリティーズにおける太陽光発電への取り組みである。まず、NTT ファシリティーズの太陽光発電への取り組み経緯から現在の実績までの経緯の説明があった。

NTT ファシリティーズはシステムインテグレーターとして、企画・設計、構築、保守・運営をトータルで実施するところに特徴がある。

講演では、電力会社を除くメガソーラー構築シェア 35%と豊富な実績をもつ同社が手掛けた導入事例に沿って取り組み状況を明らかにした。

#### 「メガソーラーシステムに対する東芝の取り組み」

株式会社東芝 太陽光発電システム技術部 部長 渡辺 憲治 氏



渡辺憲治氏

渡辺氏の講演は東芝のメガソーラーに対する取り組みである。

東芝は基幹エネルギー分野での実績から、電力系統監視制御・受変電設備、大規模プラントシステムなどの豊富な経験を生かして、接続系統の特性に配慮した最適なシステムを実現できる。また、高効率パワーコンディショナーを製品として持っていることも強みとなっている。

講演は太陽電池モジュールの技術的な評価から架台の種類や取り付け方式、架台取り付け時の注意点といった現場での問題点まで多岐に渡った。

## 「Loop におけるグラウンド設置ソーラー発電所の取り組み」

株式会社 Loop 代表取締役社長 中村 創一郎 氏



中村創一郎氏

ベンチャー企業の Loop 代表取締役社長の中村氏は、自社における自然エネルギーを利用した発電事業の現状について講演した。

Loop ではDIYソーラー発電所キットを販売しており、全国10数カ所での設置実績をもつ。この製品の具体的な設置状況や設置のための敷地確保の課題等を明らかにし、また売電収入の事例なども紹介した。

セミナーを締めくくったのは、東日本大震災の被災地となった宮城県亶理町の企業誘致対策室参事・吉田氏による震災復興への取り組みとメガソーラー発電誘致の状況など、復興現場の当事者による講演であった。

## 「東日本大震災被災地自治体の復興への取り組み状況とメガソーラー発電」

宮城県亶理郡亶理町 企画財政課 企業誘致対策室 参事 吉田 充彦 氏



吉田充彦氏

吉田氏は東日本大震災における亶理町の津波を中心とした被災状況を説明し、その上で、復興計画の現状を説明した。

亶理町震災復興計画には再生可能エネルギー（メガソーラー等）の建設が組み込まれているが、課題が山積していることを明らかにした。特に、土地利用や送電設備のコストなどの問題である。土地利用に関しては農地転用や未相続土地の取扱いなどの問題があり、また、送電設備に関しては広大な土地に送電線を引くために高額なコストがかかるなど、事業化を進めるうえでの問題点があるなど、復興の課題を明らかにした。

全ての講演が終了した後、18時より講師とセミナー参加者による名刺交換会が行われ、スマートエネルギー産業振興・特別セミナーは盛況のうちに終了した。